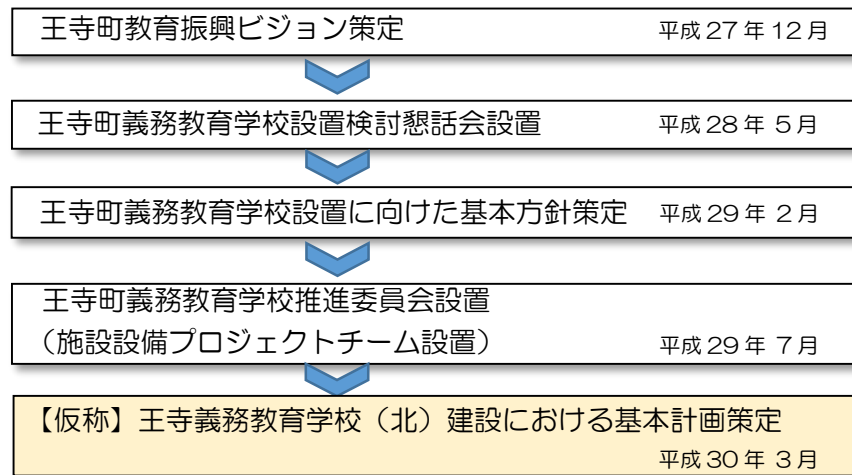


【1】基本計画策定の経緯と目的



—基本計画策定の目的—

本計画は、学校施設の改善、子どもたちの学習環境の向上を目的とし、国が示す公立の義務教育諸学校等施設の整備に関する施設整備基本方針、公立の義務教育諸学校等施設の整備に関する施設整備基本計画及び学校施設整備指針を踏まえ、施設整備に対する考え方や方向性を明確にするものです。

【2】計画のコンセプト・目標

—学校づくりの基本理念— 「王寺っ子の夢と希望をかなえる学校」

—学校づくりの4つの目標—

「夢と希望にあふれる学校」

- ・4-3-2の学年区分に対応できる普通教室の配置とし、学年相互の交流も図れるよう配慮します。
- ・情報教育の中心として多くの子どもたちが日常的に触れられるよう、メディアセンターを校舎の中心に配置します。
- ・全ての普通教室は南向きとするとともに、校舎南側に運動場を配置することで、明るく健康的な学習環境を確保します。

「安心・安全で過ごしやすい学校」

- ・災害時避難施設として十分な耐震性能を有する建物として整備します。
- ・様々な子どもたちの日常的な安全性や使いやすさに着目し、ユニバーサルデザインを採用します。
- ・犯罪に対しても強い学校とするため、運動場や子どもたちのアプローチが良く見える職員室、モニター設備を適切に配置します。昇降口と玄関は職員室に近接した配置とし、人の出入りが把握しやすい計画とします。

「自然の恵みを感じ慈しむ学校」

- ・自然通風や自然採光など子どもたちが身近に自然を感じられる学校とするため、自然エネルギーの利用を図ります。
- ・子どもたちの憩いの空間として自然を感じ取れるような屋上緑化を計画します。
- ・既存の緑は極力保全し「緑に囲まれた学校」をイメージできるデザインを採用します。

「地域とつながる学校」

- ・学校開放が考えられる屋内運動場や会議室などは学校運営と切り離しができるように、校舎西側にまとめた施設配置とします。廊下に間仕切扉を設置することでエリア分離が図られ、保安性が高まります。
- ・ランチルームとして利用可能なスペースを校舎の中心に配置します。異学年交流の場や地域交流イベントにも活用できる広さとし、本学校のシンボル空間として位置づけます。
- ・歴史、伝統、文化の保存と継承を図るため、現況中学校の北側アプローチ空間は保存再生します。



■北側からの景観イメージ

【3】計画概要

- ・名称：【仮称】王寺義務教育学校（北）
- ・建設予定地：奈良県北葛城郡王寺町本町1丁目2054番2外地内
- ・敷地面積：約42,000㎡（計画）、約32,000㎡（現況）
- ・構造・規模：鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造 地下1階、地上4階、塔屋1階建て
- ・建築面積：約6,700㎡
- ・延床面積：約17,600㎡（校舎・屋内運動場：約16,000㎡、給食・学童保育施設：約1,600㎡）
- ・運動場面積：約14,000㎡（テニスコート含む）
- ・計画学級数：36学級想定

■校区及び児童生徒数の推計

北校区範囲

（舟戸、久度、王寺、本町
葛下、藤井、元町地区）

児童生徒数は、平成38年度にピークをむかえ減少傾向となり、概ね1,000人規模で推移する見込みです。

年度	平成34年度（開校時）	平成38年度（ピーク時）
児童生徒数	1,030人	1,097人
学級数	33学級	34学級

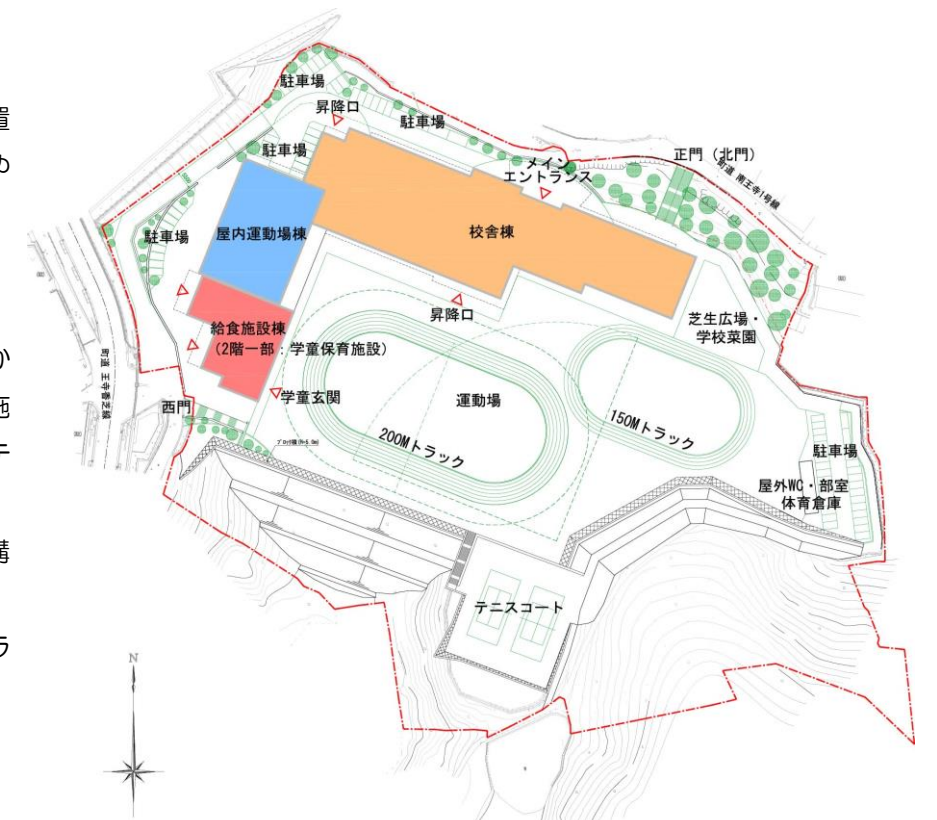
（平成29年4月1日現在の住民基本台帳登録人口及び平成28年3月策定の王寺町人口ビジョンによる。）

【4】施設配置計画

- ・学校運営への影響を最小限にしながら建設する計画とします。
- ・日当たりが良い学校とし、広い運動場を確保します。
- ・建物の機能に十分配慮し、各棟の区分を明確にします。

【整備の方針】

- ・居住性の高い南向きの教室を数多く配置するために北側に校舎を配置し、採光や通風の良い学習環境を実現します。
- ・運動場は日当たりの良い南側に配置し、校舎から見渡せる安全な計画とします。
- ・地域開放施設である屋内運動場、外部からの出入りがある給食施設や学童保育施設は西側に配置し、学校とのセキュリティを明確に区分します。
- ・敷地や校舎の周囲には、保守管理用の構内通路を確保します。
- ・運動場は200Mと150Mの2つのトラックの広さを確保します。



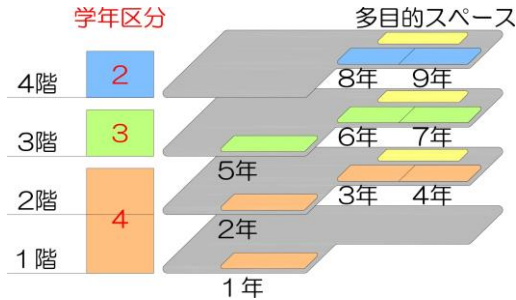


■南側からの景観イメージ

【5】建築計画

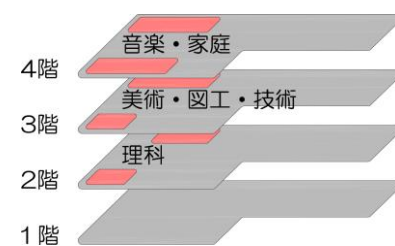
- 学年区分を考慮した普通教室の配置、連携を促す特別教室の配置を計画します。
- 異学年交流を促すメディアセンターやランチルームを計画します。

■普通教室ゾーニング



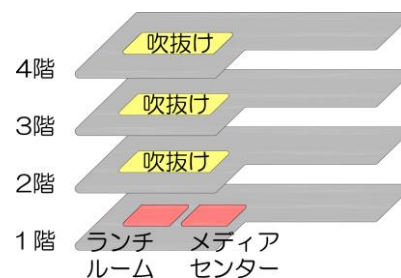
- 普通教室は学年毎にひとまとまりの教室ユニットを構成します。
- 教室ユニットには普通教室のほか、多目的教室や多目的スペース、教師ステーション、教材庫などを各学年の教育課程に応じて配置します。
- 1年生は1階、2,3,4年生のユニットは2階、5,6,7年生のユニットは3階、8,9年生のユニットは4階にそれぞれ集約して配置することで学年ユニットを構成します。
- 各学年ユニットは4-3-2の学年区分をベースに、連携を考慮したゾーニングとします。

■特別教室ゾーニング



- 特別教室は普通教室からアクセスしやすいよう、校舎棟西側に集約配置します。
- 関連性の高い教科の教室を同一階に集約することで、実験機材等の集約による効率化と学年間や教師間の交流、連携を促す計画とします。
- 理科教室を2階、美術教室、図画工作教室、技術教室を3階、音楽教室と家庭教室を4階に集約します。

■異学年交流ゾーニング



- メディアセンターとランチルームは全学年が利用しやすく、学習の核となるように児童生徒が使う昇降口の付近に配置します。
- メディアセンターは児童生徒が自然と立ち寄りやすいよう開放的なつくりとするとともに、図書室とPC教室機能を兼ね備える複合学習センターとして整備します。
- ランチルームは学年集会や学校開放時にも多目的に活用できるよう、1階に配置します。

【6】事業スケジュール（予定）

【仮称】王寺義務教育学校（北）は平成34年4月の開校を目指し、以下のスケジュールで事業を実施します。

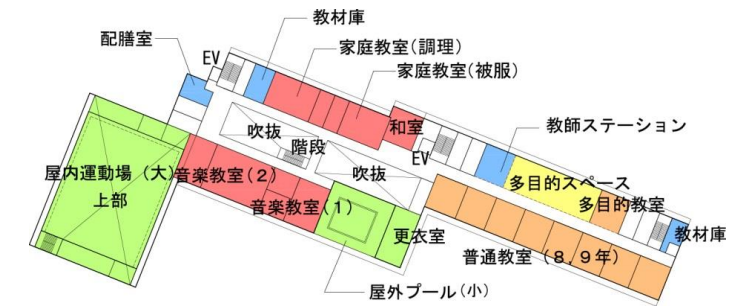
平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度
基本計画	基本設計 実施設計	一次造成工事	新築工事（建築）		二次造成工事 外構工事 解体工事	

◆開校

■平面計画

【整備の方針】4階

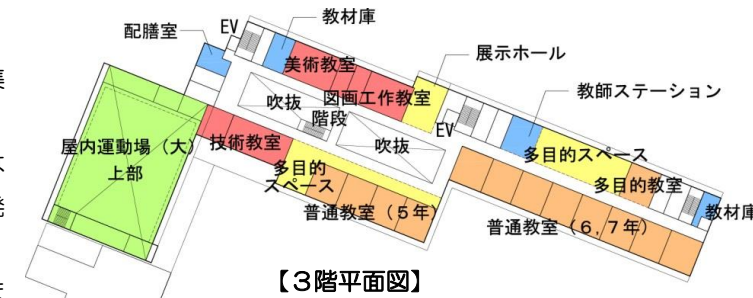
- 音楽教室は遮音性能も十分確保しながら、他教室への影響が少ない校舎棟西側に配置します。
- 家庭教室（被服）と和室を近接させることで、連携を図れる計画とします。
- 低学年用の屋外プール（小）を低学年教室の直上部最上階に配置し、アクセスしやすい計画とします。



【4階平面図】

【整備の方針】3階

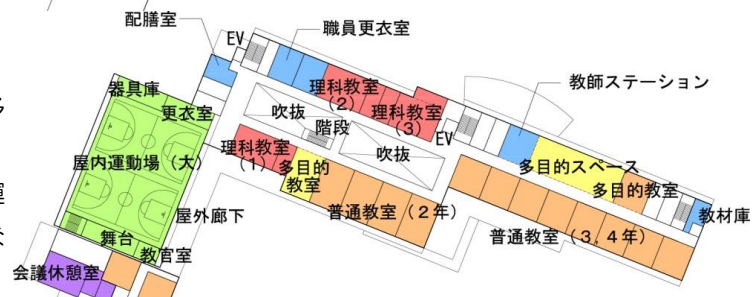
- 小中一貫校の中核をなす5,6,7年生を集約します。
- 作品保管が必要な美術・技術ゾーンには展示ホールを確保し、児童生徒の作品発表の場を提供します。
- 技術教室は屋外作業が可能な配置とします。



【3階平面図】

【整備の方針】2階

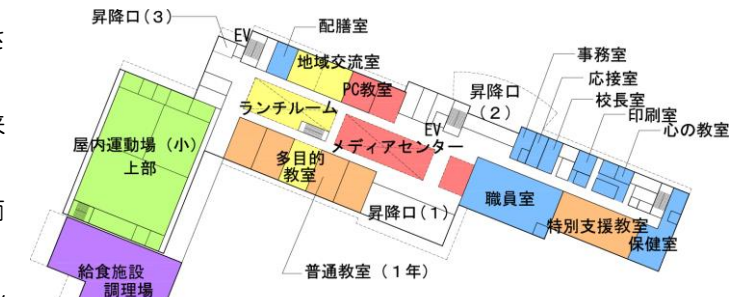
- 2,3,4年生を集約し、学年ユニットに多目的スペースや多目的教室を確保します。
- 普通教室ユニットは、特別教室や屋内運動場への動線とは区別することで、快適な学習環境を確保します。
- 特別教室を効率よく集約した使いやすい計画とします。



【2階平面図】

【整備の方針】1階

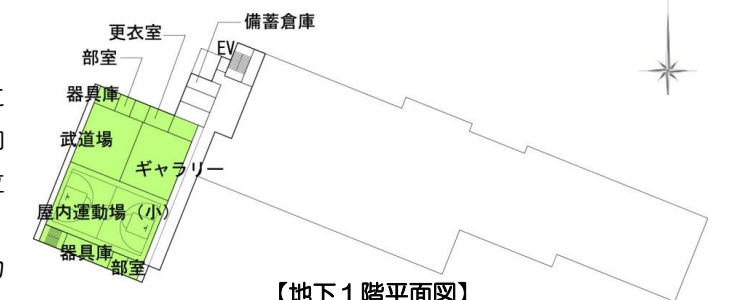
- 1年生の普通教室はゆりのりのある大きさとします。
- 職員室は運動場が見渡せるとともに、来訪者を把握しやすい場所に配置します。
- 普通教室、特別支援教室は全て校舎南面に配置します。
- 学校の中心にメディアセンターを配置します。
- 校舎中央に吹抜け空間を確保し、自然採光・換気を促進する明るい学校とします。



【1階平面図】

【整備の方針】地下1階

- 屋内運動場の半分を外部の影響を受けにくい地下に配置することで室内環境を向上し、空調コストの低減と快適性を両立します。
- 屋内運動場を小割することで、多彩なカリキュラムに対応しやすい計画とします。



【地下1階平面図】

【イメージ】



■音楽教室



■家庭教室



■多目的スペース



■教師ステーション



■普通教室



■屋内運動場（大）



■メディアセンター



■昇降口



■屋内運動場（小）



■武道場